

雪に埋もれた車の中は危険です



原則エンジン停止

一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。



一酸化炭素中毒の危険性

車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さが深いほど危険です。



エンジンをかけるときは

防寒等でやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ開放し、追加の降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう。



窓を開けていても絶対安全とは言えません

風向や窓の開度などの条件によっては、窓を開けていても閉めているときより一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあります。

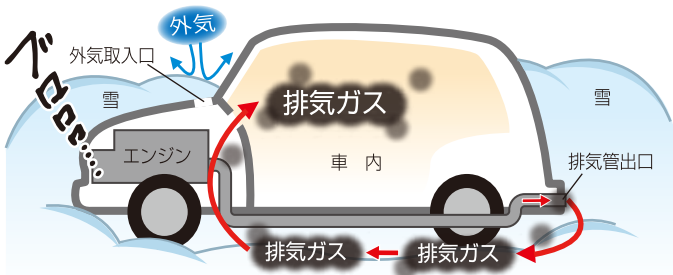


車が雪に埋まったときの注意事項

換気 のつमりの外気導入で かえって危険になることも

外気取入口が塞がった状態で外気導入にすると、エンジンルームなどから車内に排気ガスを吸い込んでしまう場合があります。

■車内に入り込む排気ガスのイメージ



内気循環 でも排気ガスは 車内に入り込む

車にはいたるところに隙間があるため、内気循環にしても排気ガスは車内に入り込みます。



車は
いたるところに
隙間がいっぱい！

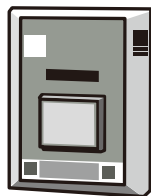
車内で発生させた
煙が隙間からもれ
出ている様子

一酸化炭素 警報器 は注意喚起 に有効

一酸化炭素中毒は自覚することが困難なため、音や光で危険を知らせてくれる一酸化炭素警報器は、中毒事故防止の注意喚起に有効です。

警報器の過信は禁物！

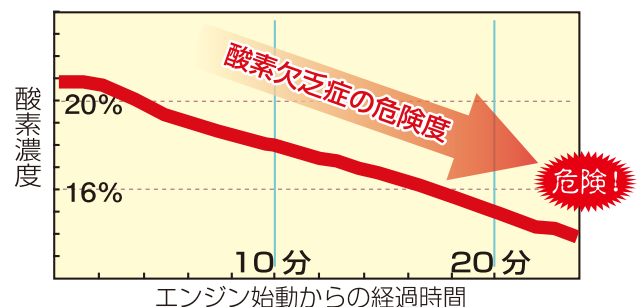
故障や電池切れの場合などもあるので、警報器が鳴らないからといって絶対安全だとはいえません。



酸素欠乏症 になる 危険も

車の埋まりかたなどの条件によっては、車内の酸素がエンジンの燃焼に使われることで酸素濃度が低下して、酸素欠乏症になる危険性が生じることもあります。

■ある条件での車内における酸素濃度の変化



エンジンスタート での暖気運転 にも注意

車が雪に埋まったままエンジンスタートで暖気運転を行うと、車内が危険な状態になってしまう場合もあります。



ものしりアレコレ

一酸化炭素(CO)は、無色・無臭

一酸化炭素は、無色・無臭なので曝露に気づかないことも多いのですが、中毒により死に至る危険もある毒性が極めて高い気体です。

酸素欠乏症もまた自覚することが困難で、症状が重い場合には死に至る危険もあります。

CERI 独立行政法人 土木研究所
COLD REGION **寒地土木研究所**

技術開発調整監付 寒地機械技術チーム

〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1番34号

TEL:011-590-4049 FAX:011-590-4054

<http://kikai.ceri.go.jp/>

寒地機械

検索